

## 研究活動報告

### 日本人口学会2004年度第2回東日本地域部会 「リプロダクティブヘルスの最近の動き」

2005年5月7日(土)午後、東京大学医学系研究科教育研究棟にて日本人口学会の東日本地域部会担当理事である大塚柳太郎会員(国立環境研究所理事長)を座長として開催され下記2題の報告がおこなわれた。

1. 「リプロダクティブヘルス：最近の国内事情」 林 謙治(国立保健医療科学院次長)
2. 「リプロダクティブ・ヘルスとミレニアム開発目標」 池上清子(国連人口基金東京事務所所長)

林会員はまず習志野市で小学4年生の母親約4,000人を対象に実施した意識調査を基に、2人目以上の出産を促進する要因として、35歳以上で女性が安心して子供を産み育てられる環境、父親の働き方の見直し、ほどよい地域性の確立などが注目されると述べた。またリプロダクティブ・ヘルス/ライツの要素の一つである「自己決定」には難しい倫理的問題が含まれることを、最近の尊厳死に関する議論と絡めて論じた。池上会員は、1990年代に開催された一連の国連会議やサミットで採択された国際開発目標と2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言を統合して2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の意義、とりわけリプロダクティブ・ヘルス/ライツとの関係について述べた。MDGsには今後開発途上地域を含め世界的に深刻化する人口高齢化が視野に入っていないといった不十分な点もあるが、2015年まで世界の開発問題に関連する様々な取り組みにおいて最上位の指針としての位置を保つことになり(ちなみに1994年にカイロで開かれた国際人口開発会議で採択された行動計画も期間は2015年まで)、その内容を理解することは世界の人口・開発問題を考える上で非常に重要といえる。17人の出席者があり熱心に質疑がなされた。

(佐藤龍三郎記)

### 日本人口学会第57回大会

日本人口学会(会長：阿藤誠・早稲田大学人間科学学術院教授)の第57回大会は2005年6月4日～5日、神戸大学六甲台本館にて開催された。大会運営委員会(委員長：高橋眞一・神戸大学経済学部教授)のご尽力により190名の参加者があり(非会員含む)、2日間にわたって活発な研究発表と討議がおこなわれた。シンポジウム、テーマセッション(1, 1, 3)および9部会18セッションに及ぶ自由論題の組織者、報告題目、討論者等は以下の通りである。

シンポジウム 「“団塊の世代”のゆくえ」

<組織者>高橋眞一(神戸大学)

<座長>高橋重郷(国立社会保障・人口問題研究所)

<討論者>渡辺真知子(明海大学)

1. 働くかたち
2. 家族のかたち
3. 住まうかたち

阿部 隆（日本女子大学）  
 小塩隆士（神戸大学）  
 岡村清子（東京女子大学）  
 伊藤 薫（岐阜聖徳学園大学）

テーマセッション1 「地域からみた人口減少社会」

<組織者>石川義孝（京都大学）  
 <座長>石川義孝（京都大学）  
 <討論者>井上 孝（青山学院大学）  
 阿部 隆（日本女子大学）

1. 純移動率（県・性・各歳・時期別）とGDP成長率との関係（相関係数・傾き・切片）  
 大場 保（国立社会保障・人口問題研究所）
2. 人口減少期における都市圏の空間構造の変容  
 山神達也（立命館大学）
3. 人口減少はどこで生じているのか：小地域でみた人口変化  
 小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）  
 中川聡史（神戸大学）
4. 大都市圏郊外における人口停滞と高齢化  
 江崎雄治（専修大学）  
 荒井良雄（東京大学）  
 長沼佐枝（東京大学）
5. 東京圏の人口移動の特徴  
 吉岡 茂（立正大学）

テーマセッション2 「アジアにおける超低出生率と対応策」

<組織者>河野稠果（麗澤大学）  
 <座長>津谷典子（慶應義塾大学）  
 <討論者>井上俊一（日本大学）

1. 日本およびアジア諸国における超低出生率とタイミング変動の分析  
 別府志海（麗澤大学）
2. 韓国の極低出生力  
 鈴木 透（国立社会保障・人口問題研究所）
3. 台湾における少子化と政策動向  
 小島克久（国立社会保障・人口問題研究所）
4. 東アジアにおける宗教と出生意識  
 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）
5. アジア低出生地域における少子化要因と人口政策  
 佐々井 司（国立社会保障・人口問題研究所）
6. アジアの低出生率対策とソーシャル・キャピタル（社会関係資本）  
 野上裕生（アジア経済研究所）

テーマセッション3 「パートナーシップの変容」

<組織者>安藏伸治（明治大学）  
 <座長>釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）  
 <討論者>阿藤 誠（早稲田大学）  
 加藤彰彦（明治大学）

1. ジェンダー、家族・再生産行動からみる国際比較  
 鎌田健司（明治大学）
2. 韓国ソウルにおける同棲経験の実態：お茶の水女子大学 COE 韓国パネル調査から

- 竹沢純子（お茶の水女子大学）  
李 秀眞（お茶の水女子大学）
3. 未婚男女における結婚選択の規定要因
  4. 日本は離婚が少ない社会か？離婚の趨勢と教育水準格差  
ジェームズ・レイモ（ウィスコンシン大学）  
岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）  
ラリー・バンパス（ウィスコンシン大学）
  5. わが国における Union Formation パターンの変化：2004年 J G G S データの分析  
津谷典子（慶應義塾大学）

#### 自由論題報告【第1部会】

- <座長>早瀬保子（元アジア経済研究所）  
西川由比子（城西大学）
1. インドにおける高齢化：地域格差と対応
  2. The Impact of Canadian Population Aging on Fiscal Consequences  
Wen-fong Lu（オタワ社会科学研究センター）
  3. 人口高齢化と日本の役割：史上最大の人口変動と日本 黒田俊夫（家族計画国際協力財団）
- <座長> 若林 敬子（東京農工大学）
4. ガロック村の人口と世帯構造：30年間の変動—人口動態が世帯構成の変化に及ぼす影響—  
松下敬一郎（関西大学）
  5. イスラエルの人口問題 内海健寿（会津大学短期大学部）
  6. 人口構成の変化に基づく年金政策についての分析（日本・米国・中国） 笠原弘義（麗澤大学）

#### 自由論題報告【第2部会】

- <座長>石 南國（城西大学）  
駿河輝和（神戸大学）  
鎌田 修（中央大学）
1. モンゴルにおける人口構造変化
  2. 日系ブラジル人労働者の定住性：その意識と行動
  3. 中国における流動人口の実態：北京・上海の調査より 馮 文猛（東京農工大学）
- <座長>濱 英彦（元成城大学）
4. タイ国内人口移動の要因分析：県別データを用いたパネル・グラビティ分析  
栗田匡相（一橋大学）
  5. 高齢者の長距離人口移動の決定因について 伊藤 薫（岐阜聖徳学園大学）
  6. 団塊の世代の誕生と成長過程：人口移動を中心とした分析 永井保男（元中央大学）

#### 自由論題報告【第3部会】

- <座長>岡田 實（中央大学）  
守泉理恵（東洋大学）
1. 子ども数に関する意識の安定性とその構造について
  2. 変わりゆく夫婦の出会いと近年の初婚率低下 三田房美（国立社会保障・人口問題研究所）  
岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）  
池ノ上正子（国立社会保障・人口問題研究所）
  3. ヨーロッパ諸国における初婚の比較分析 福田節也（明治大学）

- ＜座長＞津谷典子（慶應義塾大学）
4. 子育ての担い手，親族ネットワーク，子どもコストと出生行動：北京，ソウルと日本の比較  
永瀬伸子（お茶の水女子大学）
  5. Why the Fertility Rate and Female Labor Force Participation Rate are so Low in Taiwan?  
Mei Hsu（国立台北大学）
  6. 祖父母による育児支援：夫婦関係から見た世代間関係  
千年よしみ（国立社会保障・人口問題研究所）

自由論題報告【第4部会】

- ＜座長＞鬼頭 宏（上智大学）
1. 近代移行期の地域性：結婚と出生  
黒須里美（麗澤大学）
  2. 近代移行期の地域性：世帯構造  
岡田あおい（帝京大学）
  3. 徳川後期宿場町の人口移動と借地借家料  
鷲崎俊太郎（日本学術振興会）
- ＜座長＞斎藤 修（一橋大学）
4. 近世後期京都の奉公人について  
浜野 潔（関西大学）
  5. 「過去帳」分析システムの構築  
川口 洋（帝塚山大学）
  6. 「拡散説」再び：拡散によるカンタム要因の低下  
池 周一郎（帝京大学）

自由論題報告【第5部会】

- ＜座長＞池上清子（国連人口基金）
1. 中国・新疆における既婚出産適齢女子のリプロダクティブ・ヘルス  
ライラ・ママティ（東京農工大学）
  2. 中国農村の家族健康における計画出産活動  
宋 冰（東京農工大学）
  3. 南部アフリカが直面する三つの脅威とリプロダクティブ・ヘルス分野への影響  
大橋慶太（モントリオール大学）
- ＜座長＞早乙女智子（ふれあい横浜ホスピタル）
4. 誰が産児制限を選択するのか？不妊手術の要因：カトマンズ地方における農村の事例から  
ナビン・アリアル（一橋大学）
  5. 米軍統治下沖縄の「家族計画」をめぐるジェンダー・ポリティクス  
澤田佳世（お茶の水女子大学）
  6. 少子化の人口政策論（1）  
安東歩太（中央大学）

自由論題報告【第6部会】

- ＜座長＞江見康一（一橋大学）
1. 少子化過程の人口学的分析  
金子隆一（国立社会保障・人口問題研究所）
  2. 日本における同棲の現状  
岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）  
ジェームズ・レイモ（ウィスコンシン大学）  
ラリー・バンパス（ウィスコンシン大学）
  3. 経済的不確実性と出生変動  
小川直宏（日本大学）

- <座長>山口三十四 (神戸大学)
4. 二部門成長モデルにおける出生選択及び資本蓄積 趙 彤 (徳島大学)
5. 日本の経済成長と人口変動 大塚友美 (日本大学)
6. 就業構造基本調査に基づく労働市場分析 松倉力也 (日本大学)
- 根本和郎 (総務省統計研修所)

#### 自由論題報告【第7部会】

- <座長>井上俊一 (日本大学)
1. 国際人口移動が将来人口に及ぼす影響 石川 晃 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 月別コーホート法による日本の人口予測推計 伊原 一 (統計数理研究所)
3. ロシア人口の将来展望 トゥルヒーン・ミハイル (早稲田大学)
4. ニューラルネットワークによる人口推計 村田 久 (山村学園短期大学)

- <座長>岡崎陽一 (元日本大学)
5. 出生・結婚の同時方程式モデルとモンテカルロ・シミュレーション 加藤久和 (明治大学)
6. 多地域人口モデルにおける人口モメンタムの分析 石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)
7. ソロモン諸島パラダイス村人口のマイクロシミュレーション 中澤 港 (群馬大学)

#### 自由論題報告【第8部会】

- <座長>嵯峨座晴夫 (元早稲田大学)
1. なぜ「国勢調査」と「在留外国人統計」で外国人数が異なっているのか? 石川義孝 (京都大学)
2. 平成17年国勢調査の集計における社会経済情勢の変化への対応について 寺田義英 (総務省統計局)
3. 世帯を客体とする就業・住宅統計調査結果の精度について 山田 茂 (国土館大学)
- <座長>大林千一 (総務省統計局)
4. ロシアの2002年国勢調査：調査票の特徴とその主要な結果 田畑朋子 (北海道大学)
5. 第二次世界大戦前の日本の人口移動：潜在的移動者とジェンダーに注目して 中川聡史 (神戸大学)
6. 平均寿命は過大か？合計率定理の死亡への適用 廣嶋清志 (島根大学)

#### 自由論題報告【第9部会】

- <座長>大淵 寛 (中央大学)
1. 「1.57ショック」から15年：日本の出生力関連政策とその課題 佐藤龍三郎 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 白石 紀子 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 坂東里江子 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 北海道における少子化の社会経済要因 原 俊彦 (北海道東海大学)
3. 市町村合併と少子高齢化の関係 坂井博通 (埼玉県立大学)
4. 伊是名村の高い出生率について 木村良夫 (兵庫県立大学)

5. 移民政策の論点  
 6. 配偶関係を考慮した高齢者の居住形態に関する研究  
 7. 人口密度の資源・環境に及ぼす影響
- <座長> 兼清弘之 (明治大学)  
 河野道和 (姫路市役所)  
 白井 泉 (慶應義塾大学)  
 増田幹人 (駒澤大学)  
 (佐藤龍三郎記)

## 日本中東学会第21回年次大会

日本中東学会 (会長: 三浦 徹・お茶の水女子大学教授) の第21回年次大会 (実行委員長: 松原正毅・国立民族学博物館教授) が2005年5月8日 (土) ~ 9日 (日) の2日間にわたって国立民族学博物館で開かれた。初日の午後には公開講演会のパネル1「メディアの見た中東の20年」、パネル2「中東研究の大技・小技」、総会が行われ、2日目には午前・午後とも5分科会が設けられて会員による報告がなされた。今回の公開講演会はいずれも興味深いものであったが、人口には直接的な関係がなかった。他方、人口に関係する会員報告としては以下の2つがあった。

小島 宏 (国立社会保障・人口問題研究所) 「在日外国人『ムスリム』の人口学的特性の変動」  
 井家晴子 (東京大学大学院) 「移民と『ジャマイカ』: モロッコ王国における NGO の発展と背景」

なお、来年の第22回年次大会は5月13~14日に東京都府中市の東京外国語大学で第6回 AFMA (アジア中東学会連合) 大会と同時に開催される予定である。 (小島 宏記)

## 比較家族史学会第47回研究大会

比較家族史学会 (会長: 岩本由輝・東北学院大学教授) の第47回大会 (運営委員長: 國方敬司・山形大学教授, 運営委員: 岩本由輝, 國方敬司, 長谷部弘, 永野由紀子) が2005年5月28日 (土) ~ 29日 (日) の2日間にわたって山形大学で開かれた。今回は「家の存続戦略と婚姻」をテーマとする大会であったため、ほとんどが多かれ少なかれ歴史人口学か家族人口学に関係する報告で、その半分近くが日本人口学会会員によるものであったので、以下にテーマ報告全体と関連する自由報告を掲げることにする。

5月28日 (土)

<自由報告>

工藤 豪 (日本大学大学院) 「婚姻研究の動向—民俗学・人類学を中心として—」

<テーマ報告>

國方敬司 (山形大学) 「問題提起・家の存続戦略と婚姻」

岩本由輝 (東北学院大学) 「家存続戦略としての婿養子—大名家臣団を事例として—」

木下太志 (筑波大学) 「江戸時代の東北—農村の世帯の変遷」

長谷部弘 (東北大学) 「近世日本農村社会における蚕種経営と相続」

米村千代 (千葉大学) 「財閥の婚姻戦略と『家』の存続—明治大正期の事例分析—」

永野由紀子 (山形大学) 「現代の東北農村における『家』の存続戦略—山形県庄内地方の事例—」